

仏で交流「食文化に驚き」

篠山東雲高生3人 報告会

国の「農業教育連携」参加

農林水産省の「日仏農業教育連携 フランス訪問プロジェクト」参加の4校に選ばれた県立篠山東雲高校（丹波篠山市）の男子生徒3人が2月にフランスを訪れ、現地の高校生や市民と交流した。3人は在校生に現地での体験を報告し、「食文化や社会の違いに驚くことも多かった。学んだことを今後に生かしたい」と気持ちを新たにしていた。

プロジェクトは、日仏両国の農業高校間の交流連携を促し、国際感覚を備えた農業人材の育成を図るため2019年から始まった。新型コロナウイルスの感染拡大でフランス派遣を見合

わけていたが、今年ようやく実施され、全国の農業高校10校が応募した。篠山東雲高はフランスの高校とオンラインで交流を重ねてきたことなどが評価された。現地を訪れたのは、1年のさん(16)と、いずれも2年のさん(17)。教諭2人も同行した。

一行は2月7～11日にリヨン市のほか、交流校のあるイッサンジョー市を訪問。二つの高校で生徒と交流し、畜産農場や製菓学校、観光施設などを視察した。現地では高校の制服は珍しく、朝市などで地元の人た

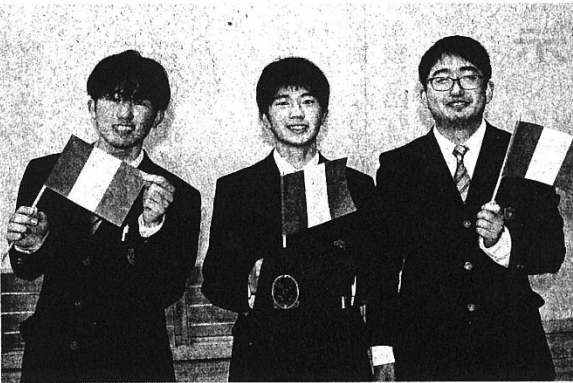
ちに声をかけられたという。

今月17日に篠山東雲高体育館で行われた報告会で、3人は現地で撮った写真を紹介。イッサンジョー市では市庁舎に足を運び、同高が地元の蔵元と提携して造っている日本酒や校内で醸

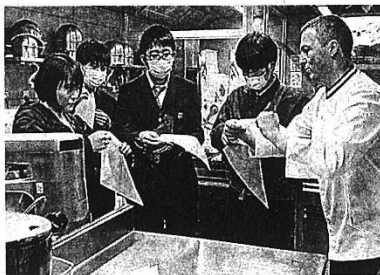
造した黒豆みそを副市長に贈ったことを報告し、「丹波篠山市をPRすることができた」とアピールした。苗作りの方法や肉牛の肥育、治安情勢などでは「日本との違いに驚いた」といい、「国際的な視点を今後の活動に生かし、課題研究に取り組みたい」と結んだ。3人とも海外渡航は初めて。さんは「(現地は)優しい人が多く、高校生はフレンドリーで、日本について次々に尋ねてきた」。酒かすを入れたチーズ作りに取り組む。さんは「現地にはタニで作るチーズがあり、びっくりした。参考にしていいチーズを作りたい」と振り返っていた。

2023年3月22日

読売新聞



フランスを訪れた(左から)さん、さん、さん(丹波篠山市の篠山東雲高校で)



イッサンジョー市にある製菓学校の校長(右)から菓子の作り方について説明を受ける生徒ら(篠山東雲高校提供)



現地の高校生と交流する(左から)さんとさん(さん提供)